

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	: Modesta M4SMOKE - Wet Application Conditioner
製品コード	: 00459
製品グループ	: 取引製品

会社情報

製造業者

株式会社モデスタ

761-8075

日本香川高松市東ハゼ町 20-3

www.modesta.co

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性	爆発物	分類できない
	可燃性ガス	区分に該当しない
	エアゾール	分類できない
	酸化性ガス	区分に該当しない
	高圧ガス	区分に該当しない
	引火性液体	分類できない
	可燃性固体	区分に該当しない
	自己反応性化学品	分類できない
	自然発火性液体	分類できない
	自然発火性固体	区分に該当しない
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	分類できない
	酸化性液体	分類できない
	酸化性固体	区分に該当しない
	有機過酸化物	分類できない
	金属腐食性化学品	分類できない
	鈍性化爆発物	分類できない
健康に対する有害性	急性毒性 (経口)	区分に該当しない
	急性毒性 (経皮)	分類できない
	急性毒性 (吸入 : 気体)	区分に該当しない
	急性毒性 (吸入 : 蒸気)	区分に該当しない
	急性毒性 (吸入 : 粉じん、ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性／刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	分類できない
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	分類できない

安全データシート

Modesta M4SMOKE - Wet Application Conditioner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

環境に対する有害性	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	分類できない
	誤えん有害性	分類できない
	水生環境有害性 短期 (急性)	区分に該当しない
	水生環境有害性 長期 (慢性)	区分に該当しない

オゾン層への有害性

分類できない

処理時の追加危険有害性 : 通常の使用条件下では、重大な危険有害性はないと思われる。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

名前	濃度 (%)	化学式	官報公示整理番号		CAS 番号
			化審法番号	安衛法番号	
C12-13 パレス-10	1	CxHy(OC ₂ H ₄) _n OH	-	-	66455-14-9
エタンジオール; エチレングリコール	0.75	C ₂ H ₆ O ₂	(2)-230	既存化学物質	107-21-1

4. 応急措置

応急措置

応急措置 一般

: 気分が悪い場合は医師の診察を受ける。

吸入した場合

: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚に付着した場合

: 皮膚は多量の水で洗浄する。

眼に入った場合

: 予防措置として眼を水ですすぐ。

飲み込んだ場合

: 気分が悪いときは医師に連絡すること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候及び症状

症状/損傷 吸入した場合

: ヒト及び動物に対する毒性データは知見されていないが、本製品は吸入危険有害性と見なされる。

症状/損傷 皮膚に付着した場合

: 通常の条件下では特に無し。

症状/損傷 眼に入った場合

: 通常の条件下では特に無し。

症状/損傷 飲み込んだ場合

: 通常の条件下では特に無し。

医師に対する特別な注意事項

その他の医学的アドバイスまたは治療

: 対症的に治療すること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

: 水噴霧、乾燥粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素

使ってはならない消火剤

: 強い水流は使用しない。

火災危険性

: 火災の危険は一切ない。

爆発の危険

: 直接に爆発する危険は全くない。

火災時の危険有害性分解生成物

: 有毒な煙を放出する可能性がある。

安全データシート

Modesta M4SMOKE - Wet Application Conditioner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

消火方法

- ：安全な距離と保護された場所から消火活動を行う。
呼吸器の保護を含め、適切な保護装置を使用せず、火災現場に入らない。
- ：適切な保護具を着用して作業する。
自給式呼吸器。
完全防護服。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

一般的措置

- ：安全に対処できるならば漏えい（洩）を止めること。
本製品が下水、または公共用水に流入した場合も、行政当局に通報する。
物的被害を防止するためにも流出したものを受け取ること。

非緊急対応者

保護具

応急処置

- ：推奨される個人用保護具を着用する。
- ：漏出エリアを換気する。

緊急対応者

保護具

応急処置

- ：適切な保護具を着用して作業する。
詳細については、第8項の「ばく露防止及び保護措置」を参照。
- ：不要な職員を退避させる。
安全に対処できるならば漏えい（洩）を止めること。

環境に対する注意事項

環境に対する注意事項

- ：環境への放出を避けること。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

封じ込め方法

浄化方法

その他の情報

- ：砂または土により、すべての拡散した製品を吸収する。
流出した物質は吸着剤で回収し、下水溝や水路への侵入を防止する。
可能であればリスクなく漏出をせき止める。
- ：吸収剤の中で拡散した液体を吸収する。
- ：物質または固形残留物は公認施設で廃棄する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

安全取扱注意事項

接触回避

衛生対策

処理時の追加危険有害性

保管

安全な保管条件

安全な容器包装材料

技術的対策

混触禁止製品

- ：データなし
- ：作業所の十分な換気を確保する。
個人用保護具を着用する。
- ：データなし
- ：この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
製品取扱い後には必ず手を洗う。
- ：通常の使用条件下では、重大な危険有害性はないと思われる。
- ：換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
- ：データなし
- ：涼しくて、よく換気された場所で、熱から離して保存する。
換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
- ：強塩基。強酸。酸化剤。

安全データシート

Modesta M4SMOKE - Wet Application Conditioner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

容器包装材料	： 製品は必ず元の容器と同じ素材の容器に保管する。
保管温度	： 22 °C

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策 ： 作業所の十分な換気を確保する。

保護具

個人用保護具 ： 推奨される個人用保護具を着用する。

呼吸用保護具 ： 換気が不十分である場合、適切な呼吸器を着用する。

機器	フィルタタイプ	条件	規格
使い捨て式空気浄化呼吸器(APR)		短期ばく露	

手の保護具 ： 保護用手袋

タイプ	素材	透過	厚さ (mm)	浸透	規格
使い捨て式手袋	ニトリルゴム (NBR) クロロブレンゴム (CR)	6 (> 480 分)	0,4-0,7		EN 374-2 EN ISO 374 EN ISO 374-1

眼の保護具 ： 安全メガネ

タイプ	適用分野	特徴	規格
安全メガネ		サイドシールド付き	EN 166

皮膚及び身体の保護具 ： 適切な保護衣を着用する。

タイプ	規格
	EN ISO 6529 EN ISO 20345

環境へのばく露の制限と監視 ： 環境への放出を避けること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	： 液体
外観	： 液体
色	： 無色
臭い	： データなし
pH	： データなし
融点	： データなし
凝固点	： データなし
沸点	： > 100 °C
引火点	： データなし
自然発火点	： データなし
分解温度	： データなし
可燃性	： データなし
蒸気圧	： データなし
相対密度	： データなし
密度	： データなし
相対ガス密度	： データなし
溶解度	： 水に可溶。
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	： データなし

安全データシート

Modesta M4SMOKE - Wet Application Conditioner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

爆発限界 (vol %)	: データなし
動粘性率	: データなし
粒子特性	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: 通常の使用、保管、運送の状況下では、当製品は反応しません。
化学的安定性	: 通常の条件下では安定。
危険有害反応可能性	: 通常の使用条件下において、危険な反応は全く知られていない。
避けるべき条件	: 推奨の保存条件及び取扱条件の下では何もありません (第 7 項参照)。
混触危険物質	: データなし
危険有害な分解生成物	: 通常の使用条件及び保管条件下において、有害な分解生成物は生成されない。

11. 有害性情報

急性毒性 (経口)	: 区分に該当しない
急性毒性 (経皮)	: 分類できない
急性毒性 (吸入)	: 区分に該当しない(分類対象外) (気体) 区分に該当しない(分類対象外) (蒸気) 分類できない (粉じん、ミスト)

C12-13 パレス-10 (66455-14-9)

LD50 経口 ラット	7500 mg/kg 出典: シエル
LD50 経皮 ラット	> 2000 mg/kg BW 動物 : ラット、ガイドライン : OECD ガイドライン 402 (急性皮膚毒性)
LC50 吸入 - ラット	> 1.6 mg/l air 動物 : ラット、ガイドライン : OECD ガイドライン 403 (急性吸入毒性)

エタンジオール; エチレングリコール (107-21-1)

急性毒性 (経口)	ラットの LD50 値として、4,000-13,400 mg/kg の範囲内で 10 件の報告がある。ガイダンスの改訂により、最も多くのデータ (6 件) (6,140 mg/kg (PATTY (6th, 2012))、8,540 mg/kg (DFGOT vol. 4 (1992)、PATTY (6th, 2012))、10,800 mg/kg (DFGOT vol. 4 (1992)、PATTY (6th, 2012))、11,300 mg/kg (PATTY (6th, 2012))、13,000 mg/kg、5,890-13,400 mg/kg (SIDS (2009)) が該当する区分外とした。なお、3 件が国連分類基準の区分 5、1 件が国連分類基準の区分 5 又は区分外に該当する。新たな情報源 (ACGIH (7th, 2001)、環境省リスク評価第 3 卷 (2004)、ATSDR (2010)、PATTY (6th, 2012)、DFGOT vol. 4 (1992)、CEPA (2000)、NITE 初期リスク評価書 (2007)、SIDS (2009)) を追加し、分類を見直した。
急性毒性 (経皮)	ラットの LD50 値として、2,800 mg/kg (ACGIH (7th, 2001))、ウサギの LD50 値として、9,530 mg/kg (ACGIH (7th, 2001)、PATTY (6th, 2012))、10,600 mg/kg (CICAD 45 (2002)、CEPA (2000)、NITE 初期リスク評価書 (2007))、10,612 mg/kg (環境省リスク評価第 3 卷 (2004)) の 4 件の報告がある。1 件が国連分類基準の区分 5 に、3 件が区分外に該当する。ガイダンスの改訂により最も多くのデータ (3 件) が該当する区分外とした。
急性毒性 (吸入:気体)	GHS の定義における液体である。
急性毒性 (吸入:蒸気)	データ不足のため分類できない。

安全データシート

Modesta M4SMOKE - Wet Application Conditioner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

エタンジオール; エチレングリコール (107-21-1)

急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	ラットの LC50 値 (1 時間) として、10.9 mg/L (4 時間換算値 : 2.7 mg/L) (PATTY (6th, 2012)) に基づき、区分 4 とした。なお、LC50 値が飽和蒸気圧濃度(0.2 mg/L) より高いため、ミストの基準値を適用した。新たな情報源 (PATTY (6th, 2012)) を追加し、区分を見直した。
LD50 経口 ラット	7712 mg/kg BW 動物 : ラット
LC50 吸入 - ラット (粉じん / ミスト)	2.7 mg/l/4h

皮膚腐食性／刺激性 : 分類できない

エタンジオール; エチレングリコール (107-21-1)

皮膚腐食性／刺激性	ヒト 103 人に対するパッチテストにおいて、本物質の原液 0.2 mL の適用により刺激性がみられた (SIDS (2009)) ことから、区分 2 とした。またウサギ、モルモットを用いた皮膚刺激性試験で軽度の皮膚刺激性がみられた (CICAD 45 (2002)、初期リスク評価書 (2007)、CEPA (2000)) との報告がある。ヒトの所見を追加し区分を変更した。
-----------	--

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 : 分類できない

エタンジオール; エチレングリコール (107-21-1)

眼に対する重篤な損傷性／刺激性	ウサギに原液を適用した眼刺激性試験において、刺激性なしとの報告がある (SIDS (2009))。また、液体や蒸気への 1 回あるいは短時間の眼へのばく露は、恒久的な角膜損傷を伴わない軽微な結膜刺激をウサギに引き起こす (CICAD 45 (2002)、初期リスク評価書 (2007)、CEPA (2000)) との報告がある。ヒトの事故例として本物質 (濃度不明) に眼にばく露された結果、結膜炎、浮腫、光反射の遅延、重度の角膜炎がみられたが 4 週間後には回復したとの報告がある (DFGOT vol. 4 (1992)) が濃度等については詳細不明である。以上の結果から区分 2B とした。
-----------------	--

呼吸器感作性 : 分類できない

エタンジオール; エチレングリコール (107-21-1)

呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。
--------	-----------------

皮膚感作性 : 分類できない

エタンジオール; エチレングリコール (107-21-1)

皮膚感作性	ヒトに対する報告が 2 件あり、本物質 5% 又は 25% 水溶液を 11 人に適用したところ、1 人 (レンズの切断作業で 25% 水溶液を扱い腕、胸、腹部に皮膚炎を発症した 31 歳女性、ニッケルアレルギーあり) に激しいアレルギー反応を示したが、他の 10 名にアレルギー反応はみられなかった (DFGOT vol. 4 (1992))。また、本物質の 1% 及び 5% 水溶液を 10 人に適用したところ 1 人 (4 ヶ月間光学レンズの洗浄作業で 25% 水溶液を扱い、発疹がみられた 17 歳男性) にアレルギー反応はみられなかったが、本物質 3% を含むエタノール溶液に対して軽度の刺激、紅斑、腫れがみられた。他の 9 人についてはアルコールに対する軽度の刺激以外の反応はみられなかった (DFGOT vol. 4 (1992))。なお、モルモットを用いたマキシマイゼーション試験において、感作性はみられなかったとの報告がある (SIDS (2009))。動物試験では陰性の結果があるものの、ヒトの事例でアレルギー反応の事例があることから、分類できないとした。
-------	---

生殖細胞変異原性 : 分類できない

安全データシート

Modesta M4SMOKE - Wet Application Conditioner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

エタンジオール; エチレングリコール (107-21-1)	
生殖細胞変異原性	ガイドラインの改訂により「区分外」が選択できなくなったため、「分類できない」とした。すなわち、in vivo では、ラットの優性致死試験、マウスの小核試験及び染色体異常試験でいずれも陰性 (NITE 初期リスク評価書 (2007)、環境省リスク評価第 3 卷 (2004)、SIDS (2009)、ACGIH (7th, 2001)、ATSDR (2010)、CEPA (2000)) である。In vitro では、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞のマウスリンゴーマ試験、染色体異常試験、姉妹染色分体交換試験でいずれも陰性 (NITE 初期リスク評価書 (2007)、環境省リスク評価第 3 卷 (2004)、SIDS (2009)、ACGIH (7th, 2001)、ATSDR (2010)、CEPA (2000)) である。
発がん性	: 分類できない
エタンジオール; エチレングリコール (107-21-1)	
発がん性	ACGIH で A4 (ACGIH (7th, 2001)) に分類されているため、「分類できない」とした。
NOAEL (慢性、経口、動物/オス、2 年)	1500 mg/kg BW 動物 : マウス、動物の性別 : 雄、結果に関する注記 : その他 : 影響の種類 : 発がん性 (移行情報)
生殖毒性	: 分類できない
エタンジオール; エチレングリコール (107-21-1)	
生殖毒性	ラットを用いた経口経路 (混餌) での三世代生殖毒性試験においては生殖発生毒性に対する影響は認められなかったとの報告 (ATSDR (2010)、(NITE 初期リスク評価書 (2007)、環境省リスク評価第 3 卷 (2004)、CICAD 45 (2002)))、マウスを用いた経口経路 (飲水) での連続交配試験では、母動物毒性はないが極めて高用量 (1,640 mg/kg bw/day) で、胎児への影響 (出生児体重の減少、同腹児数及び生存児数のわずかな減少、発生数は不明であるが顔貌異常と、頭蓋骨、胸骨分節、肋骨、椎骨で骨格変化) がみられたとの報告がある (ATSDR (2010)、CICAD 45 (2002))。ラットあるいはマウスを用いた経口経路 (強制) での催奇形性試験において、母動物毒性のみられない高用量 (1,000 mg/kg bw/day 以上)において児動物への影響 (胎児体重の減少、骨化遅延、骨格奇形) がみられている (ATSDR (2010)、NITE 初期リスク評価書 (2007)、環境省リスク評価第 3 卷 (2004)、CICAD 45 (2002))。以上のように、母動物毒性のみられない用量において主に骨格奇形を含む児動物への影響がみられたが極めて高用量であること、旧分類の根拠である作用機序がヒトに該当しないとの明確な証拠が得られなかったことから、分類できないとした。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: 分類できない

安全データシート

Modesta M4SMOKE - Wet Application Conditioner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

エタンジオール; エチレングリコール (107-21-1)

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

ヒトにおいては、経口摂取後の毒性影響は主として以下の3段階に分けられる。すなわち、第一段階(摂取から0.5-12時間)：中枢神経系への影響(中毒、嗜眠、痙攣、昏睡)及び代謝障害(アシドーシス、高カリウム血症、低カルシウム血症)、第二段階((摂取から12-24時間)：心臓及び肺への影響(頻脈、高血圧、代償性過呼吸を伴う重度の代謝性アシドーシス、低酸素症鬱血性心不全、成人呼吸窮迫症候群)、第三段階(摂取から24-72時間)：腎毒性(シュウ酸カルシウム沈着、血尿、急性尿細管壊死、腎不全)である(SIDS(2009)、CEPA(2000)、環境省リスク評価第3巻(2004))。さらに、摂取から6-14日、あるいはそれ以降において見られる影響として第四段階を置き、中枢神経系影響に加え、神経学的影響(顔面神経麻痺、不明瞭な発語、運動能力の喪失、視力障害を含む)が観察され、脳神経の損傷を示唆するとの報告もある(NITE初期リスク評価書(2007)、ACGIH(7th, 2001)、DFGOT vol. 4(1992))。なお、ヒトにおける経口摂取による致死量は、約0.4-1.3g/kg bw(CEPA(2000))や1.6g/kg bw(SIDS(2009)、NITE初期リスク評価書(2007)、ACGIH(7th, 2001))の報告がある。ヒトの吸入経路では、情報が少ないが、55ppmのばく露で、1.5分後から喉及び上気道の痛みがあり、79ppm以上では、激しい痛みとの報告がある(NITE初期リスク評価書(2007)、ACGIH(7th, 2001))。吸入経路では、ボランティアによる55ppmの吸入ばく露試験で吸入開始1.5分後から喉及び上気道の痛みがあり、79ppm以上では、痛みが非常に激しく1分以上耐えられなかった(NITE初期リスク評価書(2007)、ACGIH(7th, 2001))。ラット、マウスでは、投与量に相關した中枢神経抑制作用があり、多量の経口投与では、昏睡、麻痺、運動失調を示し死に至る。また、頻脈、頻呼吸、気管支肺炎、肺浮腫、うつ血性心不全、代謝性アシドーシス、腎臓障害を伴う多渴症、多尿症、尿中シュウ酸カルシウム結晶析出が報告されている。病理組織学的にはシュウ酸カルシウム結晶沈着による腎尿細管上皮の変性、間質性水腫、腎皮質の出血性壊死が認められている(NITE初期リスク評価書(2007)、SIDS(2009)、CEPA(2000)、ACGIH(7th, 2001))。なお、これらの影響はガイダンス値の区分の範囲では認められていない。以上より、区分1(中枢神経系、血液系、腎臓)、区分3(気道刺激性、麻酔作用)とした。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

：分類できない

安全データシート

Modesta M4SMOKE - Wet Application Conditioner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

エタンジオール; エチレングリコール (107-21-1)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

ヒトでは、男性ボランティアに 69 mg/m³ までの濃度を毎日 20-22 時間、1 ヶ月間吸入ばく露したが、全身影響はみられなかった (環境省リスク評価第 3 卷 (2004)、SIDS (2009)、ATSDR (2010))。また、カナダ及びフィンランドにおける職業ばく露による報告では、本物質ばく露により懸念された腎臓への影響はみられなかった (SIDS (2009))。この他、反復ばく露であることが明らかなヒトでの本物質への高濃度反復ばく露による知見はない。実験動物では、SIDS (2009) 及び ATSDR (2010) の記述より、腎臓が最も感受性の高い標的臓器であるとされており、SIDS (2009) で信頼性が最も高いと判断されたラットを用いた 16 週間、1 年間又は 2 年間混餌投与試験において、いずれも腎臓に毒性病変 (腎症、腎結石、尿結晶など) が雄に強く生じたが、その発現用量は区分 2 を遥かに超える用量 (腎毒性を指標とした LOAEL の最小値: 300 mg/kg/day (雄ラット 1 年間混餌投与試験)) であった (SIDS (2009))。一方、吸入経路では本物質の反復吸入ばく露試験自体は実施されていないが、SIDS (2009) による記述では、エチレングリコール類の毒性は SIDS がカテゴリー評価対象物質としたジエチレングリコール (DEG)、トリエチレングリコール (TEG)、PEG 200 のラット吸入ばく露における影響濃度が 1,000 mg/m³ 超であることから、概して低いと考えられると推定されている。以上より、カテゴリー物質の知見も含めて、本物質は実験動物では経口、吸入のいずれの経路でも反復ばく露による毒性は低いと考えられるが、ヒトにおける高濃度反復ばく露による影響の有無に関して十分な知見がなく、データ不足のため分類できないとした。なお、旧分類では環境省リスク評価第 3 卷 (2004) にあるヒトでのばく露による症状を基に分類されたが、いずれの所見も被験者のごく一部にみられた所見で、本物質ばく露に関連した特異的な有害性を示す所見ではないと判断されたため、これらの知見は採用しなかった。

誤えん有害性

： 分類できない

エタンジオール; エチレングリコール (107-21-1)

誤えん有害性

データ不足のため分類できない。

動粘性率

14.505 mm²/s

12. 環境影響情報

生態毒性

生態系 - 全般

： 本物質は水生生物に対して有害とは考慮されず、また、環境に対しても長期的な有害な影響を及ぼさない。

水生環境有害性 短期 (急性)

： 区分に該当しない

水生環境有害性 長期 (慢性)

： 区分に該当しない

C12-13 パレス-10 (66455-14-9)

LC50 - 魚 [1]	0.96 mg/l 試験生物 (種) : Pimephales promelas
EC50 - 甲殻類 [1]	0.46 mg/l 試験生物 (種) : Daphnia magna
EC50 96h - 藻類 [1]	0.22 mg/l 試験生物 (種) : Pseudokirchneriella subcapitata (以前の名前: Raphidocelis subcapitata、Selenastrum capricornutum)
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	5.96 出典: EPISUITE

安全データシート

Modesta M4SMOKE - Wet Application Conditioner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

エタンジオール; エチレングリコール (107-21-1)	
水生環境有害性 短期 (急性)	藻類 (Pseudokirchneriella subcapitata) 72 時間 ErC50 > 1000 mg/L、甲殻類 (オオミジンコ) 48 時間 EC50 > 1120 mg/L、魚類 (メダカ) 96 時間 LC50 > 100 mg/L (いずれも環境省生態影響試験, 2001、環境省リスク評価第3巻, 2004、NITE 初期リスク評価書, 2007) であることから、区分外とした。
水生環境有害性 長期 (慢性)	急速分解性であり (14 日後の BOD 分解度 : 90% (既存点検, 1988) 、甲殻類 (ニセネコゼミジンコ) の 7 日間 MATC=4.2 mg/L (環境省リスク評価第3巻, 2004) であることから、区分外とした。
LC50 - 魚 [1]	72860 mg/l 試験生物 (種) : Pimephales promelas
EC50 - 甲殻類 [1]	> 100 mg/l 試験生物 (種) : Daphnia magna
EC50 96h - 藻類 [1]	3536 mg/l 試験生物 (種) : その他 : グレン藻
EC50 96h - 藻類 [2]	6500 – 13000 mg/l 試験生物 (種) : Pseudokirchneriella subcapitata (以前の名前 : Raphidocelis subcapitata、Selenastrum capricornutum)
NOEC (慢性)	≥ 1000 mg/l 試験生物 (種) : Americamysis bahia (旧名 : Mysidopsis bahia) 期間 : 「23 日」
NOEC 甲殻類 慢性	4.2 mg/l
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	-1.36

残留性・分解性

Modesta M4SMOKE - Wet Application Conditioner	
残留性・分解性	急速分解性でない
C12-13 パレス-10 (66455-14-9)	
残留性・分解性	急速分解性でない
エタンジオール; エチレングリコール (107-21-1)	
残留性・分解性	急速分解性

生体蓄積性

Modesta M4SMOKE - Wet Application Conditioner	
生体蓄積性	データなし
C12-13 パレス-10 (66455-14-9)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	5.96 出典: EPISUITE
エタンジオール; エチレングリコール (107-21-1)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	-1.36

土壤中の移動性

Modesta M4SMOKE - Wet Application Conditioner	
土壤中の移動性	データなし
C12-13 パレス-10 (66455-14-9)	
土壤中の移動性	3920 出典: EPISUITE

安全データシート

Modesta M4SMOKE - Wet Application Conditioner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

C12-13 パレス-10 (66455-14-9)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	5.96 出典: EPISUITE
エタンジオール; エチレングリコール (107-21-1)	
土壤中の移動性	0.2 出典: HSDB
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	-1.36

オゾン層への有害性

オゾン層への有害性 : 分類できない

13. 廃棄上の注意

推奨製品/梱包処分	: 管轄当局の規制に準拠して廃棄する。
廃棄方法	: 許可を得た収集業者の分別回収に準拠して内容物／容器を廃棄する。
地域の廃棄規則	: 管轄当局の規制に準拠して廃棄する。
推奨下水処理	: 管轄当局の規制に準拠して廃棄する。
追加情報	: 空の容器を再利用しない。

14. 輸送上の注意

UN RTDG に準ずる

国際規制

国連勧告(UN RTDG)

国連番号(UN RTDG)	: 非該当
正式品名 (UN RTDG)	: 非該当
容器等級(UN RTDG)	: 非該当
輸送危険物分類 (UN RTDG)	: 非該当

MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質

非該当

国内規制

その他の情報 : 補足情報なし

15. 適用法令

国内法令

化審法	: 優先評価化学物質 (法第2条第5項)
大気汚染防止法	: 挥発性有機化合物 (法第2条第4項) (環境省から都道府県への通達)
海洋汚染防止法	: 有害でない物質 (施行令別表第1の2) 有害液体物質 (Z類物質) (施行令別表第1) 有害液体物質 (Y類同等の物質) (環境省告示第148号第2号) 有害液体物質 (Z類同等の物質) (環境省告示第148号第3号)

安全データシート

Modesta M4SMOKE - Wet Application Conditioner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

外国為替及び外国貿易法	: 輸入貿易管理令第4条第1項第2号輸入承認品目「2の2号承認」 輸出貿易管理令別表第1の16の項 輸出貿易管理令別表第2（輸出の承認）
特定有害廃棄物輸出入規制法（バーゼル法）	: 特定有害廃棄物（法第2条第1項第1号イ、平成30年6月18日省令第12号）
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	: 第1種指定化学物質（法第2条第2項、施行令第1条別表第1） ポリ（オキシエチレン）=アルキルエーテル（アルキル基の炭素数が12から15までのもの及びその混合物に限る。）（管理番号：407）（1.0%）

16. その他の情報

免責条項 当該シートに記載されている情報は信頼できる情報をもとにしているが、情報の正確性について明示・暗示を問わずいかなる保証をするものではない。製品の取扱い、使用、保管または廃棄条件は当社の管理外であり、我々の認知するところではないことがある為、製品の取扱い、使用、保管または廃棄によって生じる損失、損害または費用に対する責任は、直接・間接を問わず一切負わない。当該シートは本製品にのみ使用するべきである。本製品が他の製品の成分として使用される場合は、当該シートに記載されている情報が適用されないことがある。